

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500665		
法人名	社会福祉法人 翔寿会		
事業所名	グループホーム 箕望の丘（1丁目）		
所在地	長崎県大村市池田2丁目1163-24		
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果市町村受理日	平成27年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	平成26年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思や人格を尊重し、一人ひとりの生活ペースに合わせ、安全かつ安心して生活できる様努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大村市街地近郊の小高い場所に位置し、市街地を一望できる事業所である。利用者本人がいきいきと自分らしく、地域の人たちと楽しい生活ができるよう職員は日々支援している。家族会のアンケートを基に、ホームの活気を取り戻すためレクリエーションを家族と共に復活させるなど、家族からの意見を運営に反映している。また、職員が自身の仕事について自己評価を行い、施設長との面談を通して意見や要望を伝える仕組みができています。利用者の重度化による職員の不安から、看護師を2名配置するなど職員意見の反映も確認できる。外部評価における自己評価についても、職員全員で実施するなど利用者に対するケアや職場の運営に対して、職員一人ひとりが改善に向け積極的に取り組んでいる様子がうかがえる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で理解し、目標実現に向けて、カンファ・ミーティング・申し送りノートを活用し情報を共有している。	職員全員で考えた理念を基に、利用者の個性を大切に良い面を引き出す支援を行っている。また、避難訓練等の見学に来てもらうなど地域の人と共に楽しく生活を送れるよう職員全体で理念を共有し支援に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、法人の納涼祭での交流、防災訓練時の協力などがある。	事業所は、地域清掃や子供会に参加している。また、幼稚園児の来所や納涼祭への地域住民の参加などの交流もある。事業所は、地域の人々の介護などの悩みを相談できる場所になれるよう、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門性を活かした地域への発信、貢献はできていない。実習生を受容れ、人材育成の一端を担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議実施。2ヶ月間で起こった事など報告し、会議後は議事録を残し次回に活かしている。	規程のメンバーの参加により2ヶ月に一度の開催となっている。毎月、現状報告や行事報告などが行われている。火災防止のため、コンセントの埃を点検するようメンバーから意見が出され、毎日の掃除の時に点検されるようになった等の意見の反映がある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の相談員が来荘し、利用者との交流がある。	届出等に役所に出向いた時など情報交換を行っている。また、2ヶ月に一度の介護相談員の訪問時や行政の担当者が参加するグループホーム連絡協議会で、相談や報告を行うなど協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロに取組み実施。利用者の安全を把握する為、状況に応じて鈴やセンサーを設置する。	身体拘束ゼロに取り組んでおり研修は毎年受講している。鈴やセンサーを一部設置しており、全廃に向け委員会で検討を行うなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間のみ施錠しており、日中は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会などで、内容を理解し防止に努めている。		

グループホーム箕望の丘（1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用した利用者がいたので勉強会になった。又、研修に参加し研修内容をGH会議で報告、誰でも閲覧できるようにファイル化している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は主任が対応している。（2丁目参照）		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時に声掛けする事で、意見を聴く機会を設けている。	利用者や家族が意見等を内部や外部に表せる機会を設けており、苦情解決の流れも規定している。家族会でアンケートを取り、その結果、以前の事業所のように活気を取り戻すためレクリエーションを行うようになるなど意見の反映がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員会議の時にスタッフの意見・提案を聞く機会を設けている。	職員会議や施設長と年2回の面談を通して、職員の意見を聞く機会を設けており、職員の意見が表出しやすい環境となっている。利用者の重度化により職員が不安に感じたため、看護師を2名体制にするなど意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として常に職員に目を向け、働きやすい条件に努めている。賞与時、管理者は職員の勤務状況を知るシステムがあり、日常的な職場環境の理解に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会を通して学ぶ機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互研修参加し、職員間で情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の話す内容によく耳を傾け、信頼を得るようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いを知るために話をよく聞く。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に本人・家族の思いを聞き入れ、極力今までの生活を継続できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個人に合わせて、できる事・できない事を見極め、与えるケアではなく、一緒に活動する事でお互いを支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の一方向的な支援ではなく、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いているが、中には疎遠になっていく家族がある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の際は、居室で一緒に過ごしてもらう。	生活歴をもとに、それぞれの馴染みの場所や人について把握している。通い慣れた美容室を利用するなど、関係が継続されている例もある。また、自宅近所の友人が尋ねてきた場合は、居室で一緒に過ごしてもらうよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わり合い、お互いを支え合える様な支援は難しくなっている。又、孤独を好む利用者には活動が見える位置で過ごしてもらう。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後、家族が相談など言えるような関係性を築きたいが、多くが疎遠になっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から思いや希望を聴く。これまでの生活を把握するように努めている。	食事の後や入浴時など職員と1対1になる時間に対話することで、利用者の思いや希望を汲み取っている。困難な場合は家族からの情報や本人の表情で判断している。把握した情報はミーティングにて職員全員で共有し、支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の日々を観察し状態把握、記録や申し送りを活用。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じて、1・3・6ヶ月に見直し、アセスメント結果を見て全職員で検討し介護計画作成。	利用開始前に本人・家族の希望を確認し、アセスメントなどを基に計画が作成され全職員で検討している。利用開始から見直しまでは1ヶ月とし、その後は6ヶ月での見直しとなっている。毎月モニタリングを実施し、見直しや変更時の材料としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録で情報を共有し、必要な時に職員間で見直しができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の身体の変化などあれば、介護計画を変更し、その時に合った支援を行っている。		

グループホーム箕望の丘（1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア・学生の実習がある時には、一緒に過ごしてもらうようになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族より、希望する医療機関を受診している。	利用者の希望するかかりつけ医の継続が可能であり、心療内科も受診している。病院受診は職員が同行支援しており、受診結果を記録し家族へ報告している。協力医とは定期的な往診と24時間連絡のとれる体制であり連携も取りやすく、適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設より、看護師が週1回医療連携。GH内看護師2名。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き看護師より状況聞き、家族から情報が入る。退院の目途がつくと、退院に向けて受容れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方についての説明には同席した事がない。	重度化した場合の指針、同意書があり段階的に家族、医療機関と話し合いを行い同意を得ている。職員に看護師が2名おり夜間、緊急時も他職員を精神面でもフォローする仕組みを整えている。実際に重度化した場合は事業所でする範囲の看取り介護を行えるよう体制作りに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故発生に備え、マニュアルを作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練への参加や応急処置の受講を行っている。最小限の食料準備。	年2回火災訓練が行われ消防署立会い、消防団の参加、自治会長等の見学も行われている。近くに民家が少ない為、近隣企業と災害時協定書を結び、協力体制を築いている。火災、台風、地震時の防災マニュアルが作成されているが、実際に風水害、地震訓練が行われていない。	火災以外の災害についても、準備を行う必要があり台風、地震に備えた風水害、地震訓練を実施される事を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねない言葉かけをるように努めている。	個人情報事務所で保管し、職員とは入社時に守秘義務の誓約書をかき、退職後も守るよう説明を行っている。言葉かけについては、職員自身が気づかない場合、他職員がフォローできるよう関係性を築き、利用者の声には丁寧に耳を傾け、人格を尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を傾聴しているが、困難な場合は選択性にして聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の状況により職員の都合を優先することが時にはあるが、入居者の希望を聞くよう極力努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみを整える利用者が減った。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告や料理本を見て、食べたい物、旬の物を提供することで喜ばれている。	ユニット毎にメニューが異なり、職員が毎食5品以上必ず作るよう努めている。利用者個々に合わせた食事の量やミキサー食、代替食も行っている。季節を感じる事ができるメニュー、利用者の好きな物を順番で作るなど食事が楽しみになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は記録し足りない場合は好みの物を提供。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔状況に応じたブラッシング、ガーゼの拭き取り、うがいを行っている。		

グループホーム箕望の丘（1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録活用。一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要に応じてトイレ誘導の声掛けを行っている。	排泄・睡眠チェック表を細かく記録して、利用者のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。利用開始前はオムツだった利用者が布パンツへと改善した例もある。昼間はもちろん夜間でもトイレ誘導を行い、自身で排泄ができるように自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食事を提供。起床後飲むヨーグルトを提供するなど工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の日程で時間決めている。拒否ある時は無理せず翌日に入浴。入浴しない人は陰洗・清拭を行う。	入浴日は自由であり2、3日に1度は必ず入浴支援を行っており、拒否される方には言葉掛けを工夫している。特に男性職員が女性利用者を介助する場合は毎回、本人の意向を確認し羞恥心に配慮している。入浴介助は利用者と職員が1対1になれる大切なコミュニケーションの時間と捉え、個々に沿った支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じ休憩や午睡を取り入れている。昼夜逆転にならないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診経過報告活用し、全職員が理解できるようにしている。又、服用の際、他職員にも確認してもらい、誤薬がない様に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりできる事をしてもらい、役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体レベル低下や、戸外へ出かける事で不穏へと繋がり、外出する機会がない。	年に数回は事業所全体で、花見等のドライブに出掛けている。家族の協力を得ながら外出時に食事をしたり外泊も自由に行っている。日頃は気候の良い日に事業所の周囲にあるデッキを散歩したり、設置しているベンチに座りながらおやつを食べたりと、気分転換になるよう支援している。	

グループホーム箕望の丘（1丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理できる利用者がいない。希望ある時は、家族と相談の上所持されるようにしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいと希望あれば対応しているが、難聴の為会話が成立せず職員が間に入る。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や装飾など行い、季節感を取り入れている。又、一人ひとりが好みの場所で過ごせるようにしている。	リビングから台所が見渡せ、職員の調理風景や料理の香りが漂い、家庭的な雰囲気である。リビングや廊下には、利用者の写真や季節に合わせた小物が飾り付けられている。窓に遮熱フィルムを貼り、熱中症対策を行うなど、温度や光にも配慮し工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目が届く範囲の中で、一人で過ごしたり、2～3人で過ごせるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込む利用者はいないが、家族の写真飾っている。	居室の掃除は毎日午前中に職員が行っている。シーツは状態を見ながら週に1回、又は数回交換している。持ち込み制限はないがベッド、クローゼット、チェストと必要最低限のものは揃えられており、広々とした居心地よい居室になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の表示を目立つようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500665		
法人名	社旗福祉法人 翔寿会		
事業所名	グループホーム 箕望の丘（2丁目）		
所在地	長崎県大村市池田2丁目1163-24		
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意思や人格を尊重し、一人ひとりの生活ペースに合わせ、安全かつ安心して生活できるよう努めている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念を理解し、会議、ミーティング等にて情報の共有、理解を深くし業務の実践に当たっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地理的に地域と離れた場所であり、日常的な交流は難しく、夏祭りなどの大きな行事程度しか交流が持っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	専門性を活かした地域への発信、貢献はできていない。実習生を受容れ、人材育成の一端を担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GHの現状を理解して頂く事には有効に機能しているが、建設的な意見交換、内容には程遠く、反映できていない。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への出席、相談員の訪問などにて、現状を伝えている。また、法的な相談や運営上の問題など、直接コンタクトを取るようになっている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体として、身体拘束ゼロを徹底している。委員会にて討議し、委員により各部署へ周知徹底を図り、全職員で取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常より虐待についての意識を持っており、不適切な言葉にもお互い注意を行っている。また、ニュース等で取り上げられた事例などは、記事のコピーを取り提示、周知する事で、再認識できるようにしている。		

グループホーム箕望の丘（2丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の内容をファイル化し、閲覧できるようにしているが、活用、実践事例はない。家族や縁者に深く入り込む必要があり、主導的に行うべきかは疑問を持つ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、十分な説明を行っている。質問・疑問にも一つひとつ対応し、意向の確認、共有することで、不安が残らないよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議など家族の意見を出せる場を設けており、苦情の受付(外部機関も含め)も対応している。また、家族の「役に立ちたい」という申し出により、不定期ではあるが家族によるレクリエーションも実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、GH会議など意見を出せる機会があり、日常的にも意見を言える雰囲気はできている。しかし、反映できているのは一部であり、実現す為の建設的なやり取りはない。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者として常に職員に目を向け、働きやすい条件に努めている。賞与時に管理者は、職員の勤務状況を知るシステムがあり、日常的に職場環境の理解に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験に応じて研修を受ける方針ではあるが、以前に比べ受講数が減っている。法人内での勉強会では不足しており、外部研修への参加も少ない。個々の広い視野での成長が望めない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のGH協議会の中で、相互交換研修・相互評価を行い、交流を持つと共に、市全体として質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に馴染める様、入居前より情報を集め受容れの準備をし、これまでの生活や習慣を尊重しながら、本人の訴えに耳を傾け信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの本人を取り巻く環境を把握した上で、GHの機能を説明し、できる事・できない事を伝え、要望や生活に繋げている。また、不安に対しては、その都度十分に説明を行い、助言も含めて対応することで関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、家族が何を期待し、本人がどのような状況にあるかを理解した上で、ケアの優先を把握している。また、前利用サービスの職員とも情報交換、相談し、最善の対応を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は「共同生活」という理解はできていないと思うが、できる事はしてもらい、できる事を更に引き出す支援を行っている。（洗濯物たたみ等、皆で協力して行っている）		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外泊時には積極的に協力して頂いており、絆が保てる様、家族との時間を大切にしている。また、本人の生活を支える上で、必要な対話や相談、協力をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出・泊よくして頂いているが、GHより企画・立案、出向くなどの積極的な働きかけはできていない。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人でゆっくり過ごしたい利用者もいらっしゃるが、皆が揃い、共に過ごせる場作りに努め、個々のレベル、気分に応じて、手作業・レクリエーションを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了直後は、必要に応じて、相談・助言など行っているが、家族側も徐々に疎遠となり、稀薄な状況(関係)となる場合が殆どである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動から、本人の思いを汲み取りニーズを把握している。また、困難な場合は、生活歴、家族の思いを反映し、本人の立場に立って検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話を聴き、これまでの生活を把握する事に努め、前利用サービス職員と情報交換し、相談しながら最善のケアを検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や職員間の情報交換により、全職員が生活パターンや心身の状態を共有、残存機能の引き出し、保持ができる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より職員間にて、状態に合わせて「どう対応するか」検討し合う事ができており、家族や専門職の意見を踏まえながら作成している。状態変化には期間に捉われず見直ししている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況、特に変化がみられる場合には、詳細に記録し、申し送りや職員間の情報交換等にて情報を共有し、実践に繋げている。しかし、本人の言動や心情など、ケアのヒントに繋がる記載が不足している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族だけでは実行できないニーズが生じた時は、可能な範囲でGHの機能を発揮する姿勢はある。しかし、全体的に保守的であり、柔軟な対応はできていない。		

グループホーム箕望の丘（2丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受容れや、地域の消防団、訪問理美容、関係病院との連携など生活の支援を協力頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4週に1回往診して頂いており、体調不良、急変時には、随時連絡を取り、指示受け・受診・処方など受けられる体制ができている。必要に応じ、専門医の受診も受けられる様支援してもらっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携により、併設看護師と情報交換・相談し、GH看護師と共有・連携しながら、個々の体調変化に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適宜面会に出向き、病院や家族からの情報を収集、協議し、退院に向けた調整に当たっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際に、重度化・終末期における方針を説明し、同意書を取っているが、状態に合わせ家族と話し合いを持ち、その時点での家族の意向を優先し対応している。現時点で、重度化での医療支援、終末期に対応できる体制にない。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はなく、全ての職員が臨機応変に対応できる状態ではない。知識・実践共に浅く、随時看護師にて指示・指導をしている。対応時、冷静に対処できるようマニュアルは作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回火災避難訓練を行い、全職員が参加できる様調整している。また、申し送り時も声掛けし、防災の意識付けをしている。地域の消防団、近隣事業所に災害時の協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬の念を持ち、人格を否定する言動がない様、一人ひとりに合わせた対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側の対応で利用者の言動が左右されない様、本人が「どうしたいか」引き出す声掛けをしている。また、表情・動作から読み取る様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースに合わせ、声掛け・支援を行っている。希望に対しては、できる限り添える様、体調にも考慮しながら対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活習慣継続し、一人ひとりの好みに応じた、服装・髪型等が反映できる様、家族とも協力し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けはできる方がいらっしやらないが、食べたい物、季節に合わせた食べ物など、一緒に考えてもらい献立に関わって頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立内容、食事・水分量を記録し、栄養の確保・把握に努め、不足分は補食で補っている。また、一人ひとりの能力・状態に合わせ形態を調整したり、自力摂取が継続できる様食器にも注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの必要性を理解し、一人ひとりの能力に合わせ支援している。		

グループホーム箕望の丘（2丁目）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導を行う。トイレ・おむつ交換介助もできる事はしてもらい、極力補助的な支援に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄状況に応じ、水分量に注意し食物繊維、乳酸菌飲料を補い、能力に応じた運動を取り入れている。自然排便が望ましいが、上記効果ない場合は、主治医と相談し下剤調整を行い、機能を維持している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度入浴時間は決めているが、声掛けにて本人の意思を確認して入浴してもらっている。ゆっくりと会話をしながら、楽しんで入浴できる様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活リズムを基本とし、心身の状態やその日の体調に合わせて休息を取ってもらっている。また、昼夜逆転や不眠に対しては、要因・誘因の把握に努め対策している。必要あれば専門医と相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、利用者の服薬内容は把握しているが、副作用などの細かな理解までは難しい。重要・必要な点は看護師にて指導している。誤薬対策として、複数回・複数の目で確認し、与薬時も声掛け確認している。体調に合わせて調整も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のできる事・能力を活かせる様、洗濯物たたみなど生活面での役割を担ってもらっている。嗜好を取り入れた食事の楽しみ、散歩や趣味に応じたレクリエーションなど、メリハリや気分転換ができる様な働きかけに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には、室内外のホーム周辺での散歩、季節に応じドライブなど行っている。また、本人や家族の希望には、家族の協力を得ながら対応している。利用者のレベル低下に伴い、全体的に外出機会は減少している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理をできる利用者はいらっしやらないが、本人が所持することを希望、お金を持っていないと不安、落ち着かない方に対しては、家族と相談し、小額を持てる様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があれば、できない部分を職員が補助し対応するよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	障害物や混乱の誘因となる物は避け、季節を感じられる心地よい空間を作る為、花や飾付けなど食堂・ホール・玄関の共有スペースに配している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有部の中でも、自席であったり廊下ソファであったりと、個々それぞれに落ち着ける場所を持っておられる。職員もその日に応じて、個々または少人数でも過ごせる様、声掛けや誘導、寄り添える対応を取っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	危険性のない物に関しては、使い慣れた物、自宅での装飾品や趣味の物など家族に持ち込み勧めているが、現状として殆どない。本人の動線に合わせ、不快・不穏を招く物、配置を避け、少しでも安らげる様工夫はしているが、単一化している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口に写真と表札を配し、生活上必要な場所には、利用者の目線に合わせ分かりやすい表示をしている。また、動きやすい様手摺りを設置し、動線には障害物がない様安全にも心掛けている。		